

発展的評価項目＜独自評価項目＞

～事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムについての評価結果です～

事業所名：津久井やまゆり園

取り組み

地域生活移行に向けたチャレンジ活動に取り組む

取り組み期間

4年10～12月

PDCA	取り組みの概略
「P」 目標と 実践計画	地域生活移行に向けたチャレンジ活動として、グループホームや生活介護事業所などへの見学を実施している。取り組みを進める中で、利用者の中には初めての場所で強い緊張感などあり落ち着かず、見学ができないなどの行動があった。そこで、長期目標として「チャレンジ活動を通じて入所利用者全員の地域生活移行を目指す」、短期目標に「様々な経験や体験を重ねることで、利用者の新たな発見（可能性）を引き出す。また、社会との繋がりを深める」をあげ、取り組みを進めた。具体的には、グループによる活動、事前の情報提供の工夫、受け入れ側との十分な打ち合わせ（受け入れの準備）などを行うことにした。
「D」 計画の実践	計画の内容は、主任級以上の職員が参加する「当事者目線の支援会議」で周知し、園内で共有化を図った。グループホームなどの見学は、これまでは利用者一人で行っていたが、利用者の特性に配慮しながら、2～3人のグループで行うことも取り入れた。
「C」 実践の評価	利用者には事前に充分説明し、外の事業所に行ってみたい、見にいきたいとの希望がある方を対象にした。生活課合同の月2回のグループホームを中心にした見学は予定通り実施できた。グループホームの見学では、帰りたい素振りを見せる方もいたが、お茶をいただきながら、ゆっくりと見学の時間を過ごすことができた。外部の事業所の見学を重ねることで、利用者の選択が広がり、地域生活移行へ取り組むための一歩を踏み出すことができた。事業所を実際に体感することで、利用者は施設以外の生活を知ることができた。また、取り組みを進める中で、利用者のあらたなストレスに気付くこともできた。支援者があらたな気づきを得ることで、利用者の再理解につながっている。
「A」 結果と 改定計画	これまで見学に参加した利用者を中心に、事業所などの体験を行うことができるよう、チャレンジ活動を計画していく。また、これまで見学に参加できていない利用者には、見学を中心にしたチャレンジ活動に参加できるよう計画していく。利用者の地域生活移行に向けたチャレンジ活動に継続して取り組んでいくことを決めている。

＜第三者評価コメント＞

「当事者目線の支援会議」にて、利用者の地域生活移行に向けたチャレンジ活動に継続して取り組んでいくとのことで、今後の発展に期待する。